

高石商工会議所景気観測調査 2021年12月調査

(調査概要)

○調査対象:高石市内 68 社(業種内訳 製造業12社、建設業12社、小売業・卸売業15社、飲食業13社、サービス業16社)

○調査時期:2021年12月

○調査項目:売上高、採算、従業員(人手)状況、業況、資金繰り、新型コロナウイルスの影響

○調査方法:「FAX、インターネットによる回答」・「職員による調査票に基づくヒアリング」

(全体)



売上高		業況		資金繰り	
増加	14	好転	10	好転	5
不変	21	不変	30	不変	46
減少	33	悪化	28	悪化	17

引き続き新型コロナウイルスの影響が大きいのが、前回より**売上高が減少した事業所が減り、増加した事業者が増えるなど改善の動き**も見られる。ただ、先行きについては**まだまだ悪化するという観測が多く不透明感がある**。事業復活支援金等のセーフティーネットの活用、**事業再構築補助金、持続化補助金**等の事業展開を支援する施策を活用して環境変化への対応を進めたい。

(製造業)



売上高		採算		業況	
増加	3	好転	1	好転	2
不変	2	不変	4	不変	7
減少	7	悪化	7	悪化	3

売上を増加させた事業所もわずかながらあるが、**引き続き厳しい状況は続いており**、先行きもこの状況が続くと予測されている。コロナ禍の厳しい状況の中で**設備投資や新たな取り組みが滞っており、ものづくり補助金や事業再構築補助金などの施策を活用して前向きな投資を進めたい**。

(建設業)



売上高		採算		業況	
増加	3	好転	3	不足	2
不変	6	不変	5	不変	8
減少	3	悪化	4	悪化	2

コロナ禍の影響が続き厳しい状況ではあるが、**他業種に比べて景況感は落ち着きつつある**。ただ、コロナ前と変わらず人材は不足気味であり、資材の高騰による利益率の悪化など**不安定要素は多く先行きについては厳しい予測**となっている。ヒト、モノ、カネなど**経営全体の注視が今後も重要**になっている。

(小売・卸業)



売上高		採算		業況	
増加	2	好転	2	好転	3
不変	3	不変	4	不変	3
減少	10	悪化	9	悪化	9

景況感は前回と変わっておらず改善の兆候も出ていない。先行きも**厳しい状況が続く続くとの予測**である。事業復活支援金で資金繰りを確保しながら、EC販売の活用など**販売方式の転換など新たな取り組みを持続化補助金や事業再構築補助金の活用**により進めたい。

(飲食業)



売上高		採算		資金繰り	
増加	2	好転	1	好転	3
不変	3	不変	4	不変	7
減少	8	悪化	8	悪化	3

時短要請が解除され通常の営業が可能になり、人材不足感も出ており**厳しい状況が底を打った感**がある。今後の予測も他業種よりは回復の期待感がある。しかし、コロナウイルス感染拡大が業況に直結する業種であり、**事業復活支援金などで資金繰りを確保しながら引き続きポストコロナの取り組み**を続けたい。

(サービス業)



売上高		採算		業況	
増加	4	好転	1	好転	2
不変	7	不変	9	不変	7
減少	5	悪化	6	悪化	7

景況感や先行き予測が前回からは改善されている。しかし、事業者によって景況感に大きく差があり、採算が改善されていないなど**厳しい状況は**続いている。事業者ごとの状況により、**事業復活支援金などセーフティーネットの活用や持続化補助金などを活用して売上拡大を図るなど、復活に向けたそれぞれの取り組み**を進めたい。